

ホクコーザクサ[®]液剤

■種類名：グルホシネートPナトリウム塩液剤
 ■有効成分：グルホシネートPナトリウム塩11.5%
 ■PRTR法指定物質：ホ[®]リ(オキエフル)＝ド[®]テ[®]シ[®]ル[®]エ[®]ル[®]硫酸エステルナトリウム
 [第1種]15.7%
 ホ[®]リ(オキエフル)＝アルキル[®]エ[®]ル [第1種]4.0%

■登録番号：第22902号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：2011.03.15
 ■性状：青色澄明水溶性液体
 ■有効年限：4年
 ■包装：500ml×20本、2[㍓]×6本
 5[㍓]×3本、10[㍓]×2本
 20[㍓]×1本
 6[㍓]×3本(北海道のみ)

【特長】

- 除草活性本体のみを製造する画期的な新技術である「キラルスイッチ」により合成。
- 一年生雑草から多年生雑草まで幅広い草種に対して、高い除草効果を示す。
- 土壌中での分解(半減期)が非常に速く、環境にやさしい。

【適用内容】(2021年10月末日現在)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
果樹類 (かんきつ、りんご、びわいちよう(種子)、くり、キウイフルーツ、食用桑(果実)、さんしょう(果実)を除く)	—	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期)	300~500 ml/10a	100~150 [㍓] /10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
		多年生雑草		500~1000 ml/10a				
かんきつ りんご びわ キウイフルーツ	—	一年生雑草	収穫21日前まで (雑草生育期)	300~500 ml/10a	100~150 [㍓] /10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
		多年生雑草		500~1000 ml/10a				
いちよう (種子)	—	一年生雑草	収穫14日前まで (雑草生育期)	300~500 ml/10a	100~150 [㍓] /10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
		多年生雑草		500~1000 ml/10a				
くり	—	一年生雑草	収穫30日前まで (雑草生育期)	300~500 ml/10a	100~150 [㍓] /10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
		多年生雑草		500~1000 ml/10a				
食用桑 (果実)	—	一年生雑草	収穫45日前まで (雑草生育期 春期萌芽前及び夏切り後萌芽前)	300~500 ml/10a	100~150 [㍓] /10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
		多年生雑草		500~1000 ml/10a				
さんしょう (果実)	—	一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	300~500 ml/10a	100~150 [㍓] /10a	2回以内	雑草茎葉散布	2回以内
		多年生雑草		500~1000 ml/10a				
そば	—	—	は種前 (雑草生育期)	300~500 ml/10a	100~150 [㍓] /10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
豆類 (種実、ただし、らっかせいを除く)	—	—	収穫28日前まで (雑草生育期 は種・定植前又は畦間処理)	300~500 ml/10a	100~150 [㍓] /10a	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内
豆類 (未成熟、ただし、えだまめを除く)	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期 は種・定植前又は畦間処理)						
えだまめ	—	収穫14日前まで (雑草生育期 は種・定植前又は畦間処理)						

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グルホシット及びグルホシットPを含む農薬の総使用回数		
				薬量	希釈水量					
ばれいしょ	—	一年生雑草	雑草生育期 萌芽前処理	100~200 ml/10a	—	1回	雑草 茎葉 散布	3回以内 (萌芽前は1回 以内、萌芽後は 2回以内)		
			収穫21日前まで (雑草生育期 畦間処理)			2回 以内				
さといも			収穫30日前まで (雑草生育期 植付前又は畦間処理)			300~500 ml/10a		100~ 150 ㍈ /10a	3回 以内	3回 以内
さといも (葉柄)			収穫7日前まで (雑草生育期 植付前又は畦間処理)						2回 以内	2回 以内
かんしょ			収穫30日前まで (雑草生育期 挿苗前又は畦間処理)						3回 以内	3回 以内
ごぼう			収穫前日まで (雑草生育期 は種前又は畦間処理)						2回 以内	2回 以内
やまのいも			収穫30日前まで (雑草生育期 萌芽前又は畦間処理)						3回 以内	3回 以内
いちご ピーマン なす トマト ミニトマト きゅうり とうがらし類			収穫前日まで (雑草生育期 定植前又は畦間処理)						2回 以内	2回 以内
メロン レタス 非結球レタス			収穫30日前まで (雑草生育期 定植前又は畦間処理)						3回 以内	3回 以内
キャベツ			収穫45日前まで (雑草生育期 定植前又は畦間処理)						2回 以内	2回 以内
にら			収穫前日まで (雑草生育期 畦間処理)						3回 以内	3回 以内
にんにく			収穫前日まで (雑草生育期 萌芽前又は畦間処理)						2回 以内	2回 以内
たまねぎ			収穫7日前まで (雑草生育期 定植前又は畦間処理)						2回 以内	2回 以内
ねぎ すいか ブロッコリー			収穫前日まで (雑草生育期 定植前又は畦間処理)						2回 以内	2回 以内
アスパラガス			萌芽前(雑草生育期)						2回 以内	2回 以内
			収穫前日まで (雑草生育期 畦間処理)						2回 以内	2回 以内
	一年生雑草 及び 多年生 広葉雑草	収穫打切り後 (雑草生育期)	500ml /10a							

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用時期		本剤の使用回数	使用方法	グルホシート及びグルホシートPを含む農薬の総使用回数			
				薬量	希釈水量						
にんじん	—	一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期 は種前又は畦間処理)	300~500 ml/10a	100~ 150 ℓ /10a	3回 以内	雑草 茎葉 散布	3回 以内			
ほうれんそう						2回 以内		2回 以内			
とうがん			定植前 (雑草生育期)			3回 以内		3回以内 (定植後は 2回以内)			
			収穫前日まで (雑草生育期 畦間処理)			2回 以内					
しそ			収穫14日前まで (雑草生育期 畦間処理)					2回 以内	2回 以内		
みょうが (花穂)			収穫14日前まで (雑草生育期 萌芽前又は畦間処理)								
みょうが (茎葉)			みょうが(花穂)の 収穫14日前まで ただし、花穂を収穫し ない場合にあつては 開花期終了まで (雑草生育期 萌芽前又は畦間処理)			2回 以内		2回 以内			
かのこそう			収穫14日前まで (雑草生育期 定植前又は畦間処理)			9回以内 (1年間に 3回 以内)		9回以内 (1年間に 3回以内)			
甘草			収穫14日前まで (雑草生育期 定植前又は畦間処理)								
ぎぼうし			収穫90日前まで (雑草生育期 畦間処理)			3回 以内		3回 以内			
ホップ			収穫3日前まで (雑草生育期 畦間処理)			2回 以内		2回 以内			
茶			摘採7日前まで (雑草生育期 畦間処理)								
茶(幼木)			雑草生育期 畦間・株間処理			300ml /10a		100 ℓ /10a			
水田作物			水田 刈跡			一年生雑草 多年生雑草		耕起前 (雑草生育期)	300~500 ml/10a	1回	1回
水田作物 (水田刈跡)								雑草生育期			
水田作物 (水田畦畔)	水田 畦畔	収穫7日前まで (雑草生育期)	500~1000 ml/10a	100~ 150 ℓ /10a	2回 以内	2回 以内					
たばこ	—	一年生雑草	雑草生育期 大土寄期 畦面・畦間処理		200~500 ml/10a	1回	1回				
花き類・ 観葉植物			雑草生育期 畦間処理	300~500 ml/10a	3回 以内	3回 以内					
樹木類			雑草生育期								

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用時期		本剤の使用回数	使用方法	グルホシット及びグルホシットPを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
樹木等	公園 庭園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 鉄道等	一年生雑草	雑草生育期	500～1000 ml/10a	100～ 200 ㍉ /10a	3回 以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	3回 以内
		多年生雑草		1000～ 2000 ml/10a				

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 散布直後の降雨は、効果を減ずるので、天候をよく見きわめてから散布すること。
- 雑草の生育期に有効であるが、雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので、草丈 30cm 程度を目安に時期を失ないように、薬液が雑草全体によく付着するようにていねいに散布すること。
- 植物に薬液が付着すると薬害を生ずるので散布液が付近の農作物、樹木の茎葉に飛散ないように散布すること。特に野菜類の生育期畦間散布で使用する場合は作物にかからないように十分注意して散布すること。
- 茶(幼木)に使用するときには樹高 30cm 以上、雑草の草丈 20cm 以下で処理すること。処理当年には摘採しないこと。薬液が付着した茶葉には黄化、褐変、落葉などの症状を生じることがあるので、噴口を低くして芽や新葉にかからないように注意して散布すること。
- アスパラガスの立茎栽培で使用する場合は、萌芽している若茎に薬害を生じるおそれがあるので、散布後新たに萌芽した若茎を用いて立茎することが望ましい。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- 散布液を調製した容器及び散布器具は使用后十分に洗っておくこと。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 原液は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 使用残りの薬剤は安全な場所に保管すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼす恐れがあるので、養魚田周辺での使用には注意すること。
- ❖ 保管：直射日光をさげ、なるべく低温な場所に密栓して保管すること。